

## 令和2年度 園評価について

### 園評価の視点

- (1) 園全体として行事の内容及び運営は目標に沿って行われていたのか。
- (2) 職員の研修内容とその成果は、現場に反映されていたのか。
- (3) 保育士間で必要な連携がとれていたのか。
- (4) 日々の保育に必要な環境構成及び設定は適切であったか
- (5) 保護者との連携は十分に取れていたのか

保育計画及び保育の内容を職員間で話し合い、こどもたちに豊かな経験ができるよう保護者や地域の協力で実施計画を立てたが、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、緊急事態宣言が発令された。その結果として日々の保育は季節の行事や園の行事に取り組み環境設定や場面に応じ保育の様式も従前の通りには実施することができなかった。緊急事態宣言下で、学校等が休校の措置を取られたが、保育園は保育の必要とするこどもたちを保育した。新型コロナウイルスの影響は保育現場ではかなり制約があり日常の保育において、健康管理や衛生指導は職員とも話し合い、保育を実践した。

保育園の毎年実施している行事に関しては、安全を第一に考え、日程や内容変更し実施した。保護者には、園便りやクラスたよりで園の様子を知らせ、登園、降園時に直接話をする機会を持ち、園の理解をしていただき、保護者の方の協力をしていただいた。保護者の方からは、行事の実施が難しい中、夏まつり、運動会、作品展、発表会ができる範囲実施でき、職員の努力に感謝すると多くの励ましの声をいただいた。地域との関る機会は減ったが、コロナ感染症が終息したら、地域交流も積極的に取り組みたい。

コロナ禍の保育に対し、感染防止のため、換気対策として、全保育室に循環ファン設置、給食室、トイレを業者に消毒清掃メンテナンス、階段、廊下の床面を抗菌素材に改善、衛生面の対策をし、より安全な環境整備。

職員の健康管理も検温、行動に関して自己管理をするよう指導した。

職員は4月から4名嘱託保育士を採用、特別支援児や0歳児や途中入園児の対応もできた、また早番、遅番に未満児担任が定着できたため、こどもや保護者が安心して利用することができた。

職員の離職防止に努力をしており、保育の充実を図るために人材の育成が課題である。社会では、働き方改革が問題となっているが、当法人でも、職員の業務の省力化を検討した。保育補助員を配置し、保育周辺業務を担当してもらい保育士の働きやすい職場環境をつくるよう努め、また年次有給休暇の取得もしやすいよう努めた。職員が働きやすい環境がこどもたちに良い生活環境になるとおもわれる。

保育時間が長くなり、職員が全員での会議や研修の時間が設けられないが職員間で、連絡、報告を確実にできるよう考えていきたい。園内での研修は保育士が疑問に感じていることや保育で実践できることに取り組み、共通の理解を持って保育にあたることができた。

社会的に虐待が取り上げられ、小さいこどもの命が傷つけられている事件があるので、社会的背景も考え、保育園の時代にこどもたちが虐待されないよう職員で研修する機会を多くもった。

外部の研修が多く中止となり研修の機会が減ったが、職員間で園内研修の充実を図った。周辺の幼稚園、保育所が閉園、小学校が合併など、地域の少子化が進み、令和2年度は入園児も減少のため利用定員を90名に変更した。少子化は今後の園運営の課題である。園の状況をホームページで公開して情報開示に努めているが、園運営を広く情報開示により努めていきたい。

#### 苦情相談について

令和2年度、苦情申し出はありませんでした。